

盛岡市内に13カ所 「AI人流・交通分析システム」導入



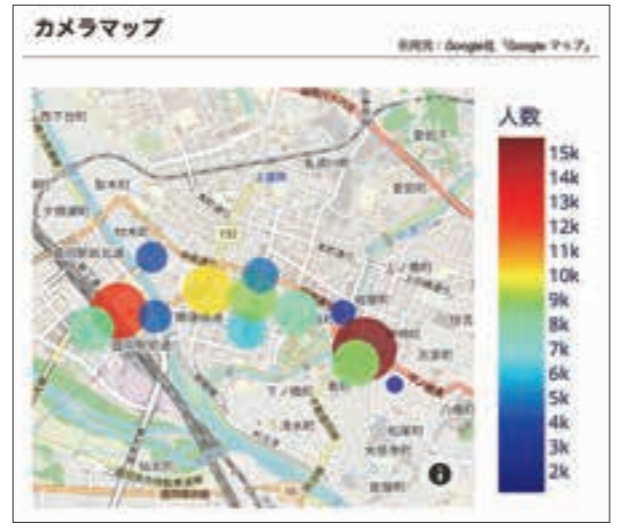
肴町アーケード街入口付近「フジタヤ」前に設置されたカメラからの人流。盛岡駅前から開運橋、大通り、中央通り、盛岡八幡通りなど13カ所に常設カメラが設置されています。

盛岡市は2023年3月、盛岡市中心市街地にAIを活用した人流・交通分析システムを整備し、サービスを開始しました。詳細なデータ蓄積と活用は、これからのまちづくりや経済振興に生かすことが期待されます。システムの概要や導入のねらい等についてご紹介します。

人流分析カメラ導入の背景

今年8月、4年ぶりに通常開催となった「盛岡さんさ踊り」。4日間で約113万8000人（盛岡さんさ踊り実行委員会発表）の観客が訪れ、昨年の2倍以上の人流で賑わいました。そして、イベントが増えた今シーズン、まちなかでは人流調査に関する新しい取り組みが進んでいました。

盛岡まちづくり株式会社は、市内中心市街地における商店街等の集客力向上や賑わい創出及び繁盛店づくり等を目的に、20年前から毎年3月、市



実際のダッシュボードの画面。該当箇所の通行量データを開覧することができます。

内30カ所に人員配置し通行量調査を継続実施してきました。しかし昨今、地方都市のDX化が進む中、既存のデータ以上の分析を求められる機会

も増え、AI分析システムによる動画解析技術を導入。人手による人流・交通調査に比べてランニングコストはかなり抑えられる見込みであり、より利用価値の高い通行量データを収集し、かつ蓄積データを地域に還元するしくみづくりをスタートしました。

2023年3月、市内13カ所にソーラーパネル付カメラを設置。365日9時から18時までの通行状況を撮影し、AIを活用した人流分析を行っています。カメラの設置地点は、盛岡駅近郊から盛岡八幡通りまで、city viewの設置カ所に合わせて、取り付けられています。常設カメラに加え、2台の可搬型カメラを用いることで、イベントの集客状況分析等も可能となります。

イベントの集客分析に活用

析システムは普及傾向にありますが、盛岡市は地方都市として先進的。他県から視察の要望もあります」と、盛岡まちづくり株式会社の北島さんは、実際に分析から得られる情報は、性別や4区分ごとの年齢層が1時間ごとに往來したのべ人数、4区分ごとの車種が1時間ごとに往來した数を計測。駅前、大通、肴町の3カ所については、1時間ごとのリアルタイム分析をホームページで公開しており、混雑状況も確認することができます。

すでに、商店街では活用導入がはじまっており、肴町商店街は8月に行われた七夕まつり開催時にデータ集積を行いました。盛岡市肴町商店街振興組合事務局長の大澤克弘さんは、同システムの活用について、次のような期待を持っています。

「七夕まつりは、肴町商店街の一大イベント。これまで大まかな集客データは把握していたものの、企画を立て実践した後のチェック部分が不十分でした。今回のAI分析では、七夕期間中と1週間前



「人流分析の継続は来年度に役立つ」と肴町商店街振興組合の大澤克弘さん。



ソーラーパネルを使うため、電源不要で低コスト化も実現。

データ分析に活用。駅前商店街は補助金活用イベントの報告データに活用するなど、徐々にまちなかでの利用がはじまっています。「こういう客層が来ているか、次に取り組む材料を判断するための検証機会にしたいですね。肴町の場合monaka（モナカ）オープンに伴って仮店舗営業中のテナントが空くことが見込まれます。新たな入居者誘致に向けた客層分析の参考資料になると思います」と大澤さん。

サブスクサービスも実施

集積したデータは、サブスクリクシヨンスービに加盟することで、データ閲覧が可能です。北島さんは「台数拡大も含め、取り組みはスタートしたばかりですが、学習機能を持つAIは顔を記憶することができ、人物特定した移動検知も将来的に可能かもしれません」と、今後の期待を話します。

「歩いて楽しむまち」をキャッチフレーズにする盛岡。ゆるやかに人が回遊し滞留するまちづくりに向け盛岡市では、行政における政策立案や地域課題の解決にも役立てていく構想です。